增本甲越軍記三編

二

へ遠3
2258
26

池清

門へ遠13
2258
26

繪本甲越軍記三編巻之弐

目録

塩尻峠合戰之事
晴信一騎吉市と組む図
深澤平六左衛門信玄と交戰之事
山岡平治左衛門深澤と討図
小山田平治左衛門由緒之事
長尾景虎越中發向之事
晴信伊奈木曽松本手遣之事

野木備前守血戰之図
習井坂合戰之事
小幡孫治郎敵將九山筑前守と討事
小幡孫治郎切名之図

塩尻峠合戰之事

兵貴神速敵の動作を測て甚不意に出て見と敗ふと智將中謂ふ云ふ武田大膳太夫晴信ち敵の謀略に就て寄付と設け伊奈木曽小笠原が方便を折んと一騎懸に信州古市田差給ひ此地に後殿と待給ふ所へ追ふ小弛付られべ古市田て勢と揃へ此ち先手旗本六子鑓人と必ず戰べと小幡山城守秋山伯耆守小山田備中守作左衛門尉正忠小宮山丹後守馬場民部少輔戸田下野守飯富兵部・草間備前守と先を一紙の備に原美濃守山本勘助穴山伊豆守貝向大和守ハ脇備に遊軍と伊奈木曽小笠原ゟ三將と押寄べ先手旗本ゟ三將ゟ旗を出さぐう先

一番も早く追ひ懸べーと七月十八日の夜の又更け及んで古市を立
揉よんで道と急ぐ程に翌日辰の刻に塩尾峠に着やいな信州
勢は陣を伏せ技速もう中へ鉄炮とどろくと打ち掛けると時と場
一齊に接つれて切てかけ信州勢大に驚き武田勢今日はかんどまる
べーとも思いざるーに滅に天魔に等しき晴信に対て高名と顕はさん敵に小勢で
怖るべき大将着陣あり間晴信と対て高名と顕はさん敵に小勢で
只一息に対山崩せやと同じく鯨波と揚合に鉄炮と打出鎗と合せ鳴り
叫んで突てふ武田勢晴信ガ和勇ーく兵一揉に切崩さんと火水と
成て働けば伊奈木曽小笠原方に諸隊将も晴信と対得んと四角八
面に蜘廻り切とも突とも一歩も引とど噴声を励ーー両陣の矢石は空
と行違ひ死生と顧ず戦ふ中に小幡山城守秋山伯耆守手先

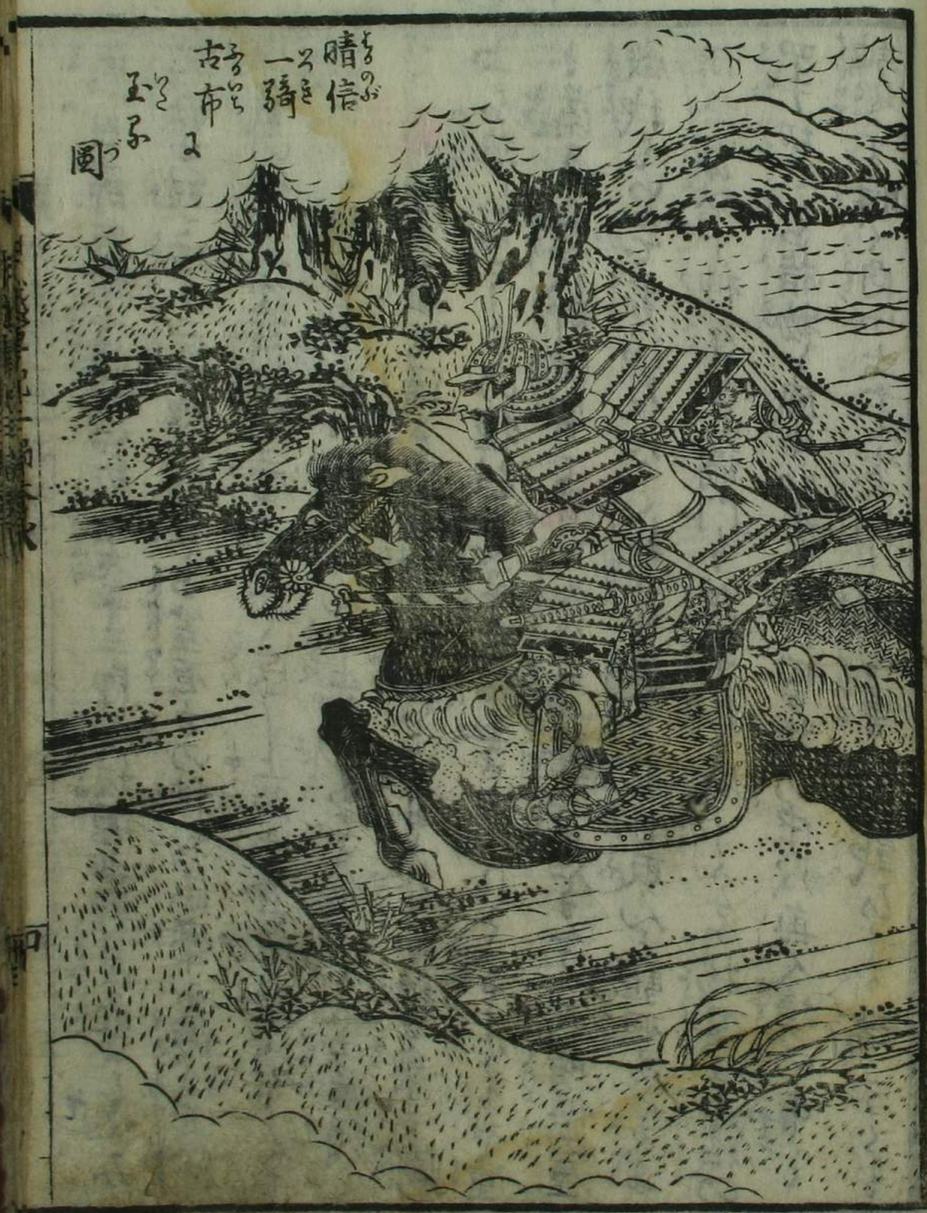
と廻ーて突たれば小笠原方ふーるふ小笠原掃部太夫江南治部大輔同
刑部少輔太田弥助種村志摩守鋒先と初めうーく打合ひ伊奈の
彈正小宮山丹後守が勢叫んで伊奈の諸将保科淳正溝口小田
切松尾砥野場羽生猶部松尾松岡一野瀬下条等鳴ーく戦ひ馬場民
部少輔芦田下野守飯富兵部少輔其外雄奈の諸大将小木曽の
簾下瀬場兵衛太夫天野鬼十郎松岡村井神原村上の属下須田神戸
高梨井上公寺と鎗と鎗と割ひ間ーくもえざり秋山
ガ組衆坂西治部右工門飛を抽んで雑兵三人を突倒ーー小笠原方に
原田播磨守と戦ふ首と取木曽方の松田肥後守大郷源太左工門
ガ剛将敵と八方ふ突て廻り鎗の穂先と紅ふ染て独廻ふと伊奈の士
海野壬水と敵でー独寄て大郷ガ独かふふ馬の前足と撫雑ふ切

倒さ大郷恒へば三落う所を独寄く首と取られる績く佐奈多が富
士佐奈多勘解由深谷市郎太夫望月甚八三宅三太夫大塚佐渡十八
人おからづと敵中小刻く入る捕高名貪志ぶ木曽が属下天野鬼十
郎ちくよう先さんで馬場民部が馬武者八人切倒し給ふ小
強く戦ひられば太刀と鍔元より折く打物おられば大手と廣げ近
寄敵と引ちくんで投廻る車宛然も手鞠と擲ち中とあらば又木曽
が勢ども中より萌黄威の鎧と著し馬中き金の馬甲とうけ胴勝ふい
大の字に指物と指せ獅子奮迅の如く太刀き切先と切り鎗八穂先
とちくん武田勢の中く檜釈き切く唯と駈入大将雑兵の嬰ひおく十文
字小弛廻り敵と対戦麻と雑が如く短兵急に戦へ小笠原の江間
治部少輔が勢三百餘騎太田弥助が勢百五十騎敵勢と屈と戦死

印 335

かと云て戦の形勢誠に見事中々云へ云ふ是を見て芦田下野
草間備前其外組下四百餘騎唯と信州勢事共
甚だ名と勝く義と而く足も引と挑く今の都く今日の戦ひ先
備一奇の合戦あれば山兵と震ひ動く白又へ烈日の如く
覚しく頃く七月十八日炎熱焦烟が如く長途く労れ武田が六
千の勢信濃方が一万餘人の主戦く敵し如く後彼所く討出明をれ
篠色四度路く見くれば大将晴信氣と拘給ひ采配と振く敵の主
将あれ寄合勢あるで手先と廻く突崩せ篠本の者共も
もや如れと知あれば篠本あり合仕士等何へ入て猶豫へ
き一奇く商と作り撞く鐘と撞く中も士屋惣八郎金丸銃
弟今井九兵衛日向藤九郎春日源五郎市川源五郎原惣五郎

甲 586



飯富三郎兵衛小幡弥治郎金丸平三郎長坂源五郎真先よりみ
縦横に討て廻る土屋惣八郎ちゝ笠原方の種村志摩守渡り殺方
血氣の壯者鎗の穂先と雷光の如く閃つ上段中段下段よりくんで
戰ひしが種村が胸板と突ぬかに任せ曳と跳
つゝ付廻ぐ巖も通まと種村が鎗玉よりふしくるよりも噇
上ふ物ひゆさゝらの種村一先り鎗玉よりふしくるよりも噇
と落ると惣八郎馳寄て首と取金丸筑茶是とうゝ天晴候土屋
殿我もいつで出ぬと雜兵と追ゝ能首取んと駈廻ふ
伊奈が旗下神原八左衛門ち絆糸りて威しくふ物見よ金紙の
四手切くふ指物と風ふ吹ぬ武田が勢の中ゝ無人境の如く
馳廻つ暫く間ふ十七人突倒し猶も勇んで戰ひしが端ちくも

金丸弓先二先斗りふ馬とりけ合ぎ金丸鉄棒の如く太刀と振名乘うけく
あてうつるれば神原八左衛門心得うと名乘合せ叱くと鎗とゝ合ぎ
暫し搦く戰ひしが金丸ち土屋ち先とくられうとゝ思ひ噴声
雷の如く呼く飛廻神原が真向と微塵ふあれと切付ぎ剛強
の八左衛門も額上を打付られ仰ゝ反く倒るとり押へく首とぞ
取けるふ

澤澤平六左衛門信吉の長戰ゝ事

爰ゝ伊奈の緒大将の中ふ深澤平六左衛門尉ち黒革ふ黒糸威の鎧
と著し鹿毛の馬よりこうり雜兵ふ中ち目もるの鎗と馬の平首よりふ
徒敵ふふと乱軍の中と睨ゝ廻くしが此時武田が旗本の緒勇士ち
敵と入して弛出れば旗本ふ扈從僅ふ三五人ふ過ぎ晴信ち獣ふ

威の鎧の上に錦の陣羽織を着し法性の兜を中姓に持ち床机に腰打掛
来敵中と呼はりて戦ひの様と睨で居給へとゝるより深沢天の矢を大
に悦び大将と討ん事此時と名乗べ得ぐうゆくと疾風の如く真
驚に池ゆう鎗を脇々と引きぐに晴信見がけ突掛ると晴信とるべ
来敵中て丁ど刎給へ穂先狂ひて空と突く無念あると鎗くう直し
二の鎗に晴信ぐ右の股と二所迄ちくうゆ突ぐうゆ晴信強ぐ鎗の鶏
の首とちうゆ掴ぐう尾竜者所と叱ぐう声深澤ぐ頭に雷の落ぐ如く
さしも大剛不敵の平治左衛門思ひ渾身強眞眼瞋んで働ぐ得ぐ
此時中山田平治左衛門尉ぐ雄本勢ぐくく戦場に独入首二級を
取ぐ片手中提獅敵中中ぐくーぐちうゆ胴中ぐ程に大将の御詳
覚東ぐーと馬と叱ーー逸に此体とゝるより拙ーそ御大事ぐんあれ

と持ぐう首と大地に投捨馬に一鞭ー筋違に独ぐう深澤ぐ馬近く寄や
いぐ大唱ーて切付ぐゆ餘ぐ心と奇つくく太刀先届ぐ深澤ぐ乗ぐるの
後と磐と切る馬ぐ尻と切ぐ怖ぐ刎上ぐ深澤鞍壺に立ぐう得ぐ真
逆様に墜と落ぐ平治左衛門飛ぐつぐ引敷んとそれと剛力に
深澤刎返ーーく無手と組曳やくくと揉合ーぐ深澤ぐ運や尽ぐうん
拳痛ぐ見へれぐ平治左衛門深澤を取ぐ押へ首と掻ぐ晴信に差出す
是に驚ぐ武田ぐ旗本独帰ぐ君と守護る者百餘人晴信に此痛手
中此無痛ぐ給ぐ猛兵と励はーー給ひれぐ武田勢弘勇両軍ぐ手に
連ぐぐ入乱に七転八倒ーて戦ひーぐ信玄勢多勢ぐくくと
将軍ぐ出馬も多ぐ皆寄合の集ぐ勢男ぐく心に一を限の戦ひーて
右崩に其左救ぐ先乱ぐれぐ後ぐう入替ぐ助けぐれぐ一致の武田

甲 539

勢ゑ切崩され討死を負殺し中少も丈曽の属下ゑ一将瀬場兵衛
太夫宗竹軍を乗ゑ離ゑ晴信と目ゑうけて旗本近く進ゑ寄るを
馳合ゑ小脇かく小太夫を番ひ引絞て切て放つゑ過ゑず晴信が右の腕み
礑と射通し晴信甚矢とうがり捨あれ討留ゑと仰の下より春日
源五郎小山田平治左衛門尉安部五郎左衛門佐奈多源太左衛門
駒井右京亮原大隅守伊藤玄番島田外記栗原藤蔵大戸豊
前守初鹿源五郎金九平九郎岩手右衛門佐曽根与一之助等ゑと
呼んで討ゑかゑる瀬場も手痛く戦ふと雖も味方の崩ゑゑと
引返ゑんとすれど武田勢ゑ喰留られ討ゑ者四十ゑ人瀬場兵衛
太夫這ゑゑ血路と開いゑ引退く信州勢惣敗軍となり縦者ハ主と
捨子ゑ親と顧ゑず殿ゑく七刻裏八裁ゑ追捲られ塩尾峠と上ゑみ

散ゑ西威ゑ引退くと武田勢追詰ゑ首と獲ゑ事八百七十三級ゑ
ゑ伊奈木曽小笠原の三将ゑ属下の諸大将敗走の上ゑ甲州勢必
定寄来ゑべしと皆持城ゑ籠りて専ゑ防戦の用意とぞ急ぎける
小山田平治左衛門由緒之事
武田晴信敵の謀略と拵き神策ゑて敵と追崩し勢ひみ乗ゑ
伊奈木曽小笠原の三所ゑ手遣ひあるべき所ゑ大将晴信三箇所の手創
と蒙ゑり給ゑ上内三箇所（深澤ゑ鎗一箇所ゑ深澤ゑ射ゑ矢疵ゑ）長尾景虎ゑ出陣心元ゑしと
早く甲州ゑ帰陣あゑく手創養生の為嶋の温泉ゑ入浴し十餘日ゑ
して平癒ゑゑれバ八月再び信州川中嶋ゑ発向ゑゑ村上一味
の諸将ゑ領地と乱妨放火し敵地の稲とゑり取味方の城ゑ取籠さ
せ城後の動静とゑ給へど城後勢出張の体もなければ馬を

甲州より純給ひ今度塩尻より於て粉骨と尽て輩より各褒賞ありし就
中小山田平治左衛門が危急と救ふの働きと称し給ひ感状より太刀一
振と副く賜る此小山田ら備中守が一類にて父と小山田平二とふ強
勇大膳にて信亮の代度々戦功覚への者ありしが一年同じ組
盛田又郎太夫家小行く郷の車といひ暮りに論と仕出し席上より
く討果さんと又傷より及ぶ盛田が家士公寺主と助け小山田と取囲ら
既に危ふ[illegible]が平治左衛門其時小太郎迎十四歳志きり小怔忡せ
ら是只車より兆ど父が他行心行おしと手鎗引提み盛田が家ゑ馳
行あれば父平二障子と後備より取く盛田が家人と拒ら戦ふとゐる
より拘怪と鎗取直し拒ふと跡人で独く入ゑ郎太夫が脇と一鎗ゑ
ぐさと突ふぐ小太郎御迎ひより参りて候と大音より呼ゐりれば盛

甲越 541

田が家士等此勢ひより怖ず驚れ太刀と引て逃出ると小山田父子追ふ
て五人と切伏せ危きと遁れて宿所より帰ふ後仮没して平治左工門と
号し此度塩尻表より大将の難と敢い奉ら時も又怔忡して闇ゑ
危急と知る事平治左衛門若年より振舞明神と信じ奉ふ奇
特より依所ありし相川甚五兵衛と謂へる強勇武士ら此平治左衛門
ぐ子ありしとぞ

長尾景虎城中発向之事

長尾景虎城中発向の用意ありるゑ武田晴信塩尻小於て信州勢と追崩しられば手負
違し今ら信州発向詮ありとて出張と止め給ふとゐも既ら陣鎧
直垂上ら此侭小止られんもいでなりさんば城中より攻入べしと天

文十七年八月二十日賊後の春日山を發馬あり爰小賊中の諸大將
ゝ能州の守護畠山修理太夫義則に屬し玄めゝ天文十一年長尾
信濃守為景當國を討亡とれば景虎父子吊ひ合戰の為に定
我國を軍を出とべし景虎いゝ武勇を達しゝゝと乳口尚乳臭
兒何程の事うあらん我國小攻寄り四方より一同に打て出り畏ん
で一人も漏さじと討取んと神保安藝守同左京進良衡推名肥前
守泰種同甚左衛門尉土肥大膳亮唐人兵庫松岡長門守江浪五郎遊
佐土屋と謂ふ賊中國中の諸大將合議し盟を結び此度景虎賊中
に發向せと聞より諸將勝に合せ已に居城に備龍の要害と堅固
に備へ長尾勢遅しと待ゝ賊後の先將ゝ直江大和守實綱千
坂對馬守憲清大崎筑前守高清大川駿河守鮎川攝津守脇丸賊

甲越 42

中の國境迫勢と出し此地にて後陣を待掛ふ如き
ゝ間者爰彼迄より弛まつゝ敵の計議を逐に告れば景虎
國の諸將集とき群臣を集めて軍議あり直江大和守千坂對馬守
大崎筑前守笠寺進ゝ出賊中小方ゝ神保推名の兩人ゝて大敵
に候へば此兩城に押籠無二無三に攻寄ふ其勢ひに恐れ徐の小
敵等ゝ背頭と抱へ戰ひ降參仕し連に松倉金山の城に籠
取詰あゝ然るべしと申と景虎頭を搖此事甚不可あり假令小敵
ゝも四方より蜂起して襲ふ賊又勢と合て防がんば
ゝ然る時ゝ我戰士八千あり無是と四方に分つ時ゝ殘兵
四千小足に此勢にて必ず敵と討ん事遠計あれば如ふ是兵法
に大千の小千と謂ゝ大に悪ゝ迄あり今度味方の弱氣と敵の

心と十分小驕らせ其驕を挫き撲を見て斬べ何の力と用ふる足らん一挙
して攻平ぐべしと九月三日一戰を交ふ陣排ひして越後へ歸り
給ひ猶も侍ら又人を越中小遣はして諸大將ら驕を挫ふと
探らせ給ひけり

武田晴信伊奈木曽松本手遣ふ事

天文十八年四月武田晴信ら為て越後へ入置ふる間者あり景虎近々
越中出陣あるべき公告ふ此間小伊奈木曽小松本と攻平へ
十一日甲州と雷発あり信州の海道を著陣あり麦小信州伊奈の
媒主保志奉彈正忠山後と綿ふ大剛無双の勇將なり甚光信濃源
氏井上掃部介頼秀ら末葉にして代々信濃國小住し海道信濃守
頼貴ら於下小属し頼宗ら亡びて後ら信濃の諸將と合縱をと

去年塩尻にて敗を取りしより信州の諸將を見聚り一門老臣
士と取扱ふ倩當國の諸大將ら挙動を量ふ謀略拙りして
俱ふ計ふ小是ら当時武田晴信ら智謀抜群の名將なれば勝ち又強
大なれば県ら属せんと思へども晴信狼戻小して父を逐ひ一門ら
紡を敗ら害ふ敵ふれば不孝不義の將ふ事ふ人もいふ
越後の景虎ら年未ら弱冠ふ過ぎども絶倫の將なれば県ら
や属せん汝等ら異見いふんと尋ねれば各得失を論じ判断區
々なりて果ら皆小田中義作進ら出長尾景虎英雄の聞へあり
ふも志し加賀能登越前越中小ら當國小軍を出ふ只村上
小義清ふ武の一道而已晴信專ら當國を目指地を異ふ事十小
して五を獲ふ當國の諸將是ら敵ふる者多く竟ふ武田ら有と

544

野木備前守血戰之圖

あぶん車迚ゑ有べきの晴信が不義と惡く給へども信虎無道ゆ
く國危ふく民の塗炭と陸と助んと老臣等と謀く國と治め給よ
るれば敢く無道とも故ゑ古老の臣士能縱ひ衛ゑば晴信ゑ屬し
給ふこと順道ゆて和家長久ゆんと迷ふゆて緒臣ゑ同心終
小人質と出し晴信の旗下小屬しゆれば信玄大ゑ悅び給ひ去べ諸軍
の手分とふさんと先松本筋へハ板垣弥治郎信里日向大和守昌時原加
賀守昌俊小幡織部正虎盛其子小幡弥治郎原与左衛門尉甚子
原惣五郎横田十郎兵衛尉市川梅印其子市川傳次郎都て七頭ゑ
板垣日向原小幡が組從ゑ發向と伊奈郡へ浅利式部信者馬
場民部少輔景政山本勘助晴幸安間三郎右衛門尉都て四頭ゑ
浅利馬場が組從ゑ軍ゑ山本小住とべしと指向ふる本筋ゑハ耳利

藤藏耳利信中内藤修理正昌豊原義濃守虎盛曽根七郎兵衛
尉都て四將ゑ耳利内藤原が組從ゑ軍ゑ原ゑ任ぜと命ぜられ
各三方小發向と大將晴信ゑ諏訪ゑ本陣とゑられて三方の左右と
ゑ待給ひゑ斬く耳利藤藏内藤修理正ゑ本筋ゑ發向し
鳥井峠ゑ此方の在家と悉く放火し習井峠と打越小木曽
方ゑ勝八百餘峠の半復ゑ待受敵くゑ討ゑられば武田方ゑ鉄
炮と手槍く打かけ敵の色めくとゑるゑ耳利内藤が組千葉倉丹
後守畠野加賀守須原宗左衛門道寺久助花形民部左工門木
部駿河守町田兵庫上泉伊勢守と始め窕竟の勇士共一ゑ討
ゑ大將耳利藤藏真先ゑ進んでゑられば木曽が勢
松田村井神原篠原藤本等ゑ足もとく打乱され返とゑ小

敗走し在家と小楯は取り防ぎ戦れども其利無く峠と打越し
遥間おく討程は木曽勢怖へどして敗走し武田勢騎馬三騎歩
卒八人の首と取り諏訪の本陣へ献る小笠原は山ひくる板垣
弥治郎原加賀守日向大和守も松本の西の在くと放火して押掛
小笠原は旗下小も小笠原掃部太夫野木左衛門尉同備前守
九山肥後守同筑前守拓井田紙屋守一千四百人と三手に甲
州勢の足と立させずと短兵急に討てかれば甲州勢小坂と云
小岩火水と成り戦へども敗走と小笠原勢勇ましき
歓は足と立させずと坂と上る追る板垣が組廣瀬郷左衛門三
科肥前守猪子文蔵曲渕庄左衛門上野豊後守坂中して踏止り
箇程の敵は押付と見とる悪さよ我は續けと罵つる押つる敵は

中へ馬と乗入矢庭は十八人突倒と丈は競へく板垣目向小幡摂津
市川喜と返し一斉小突かれへ小笠原勢堪へ得ず二十ばかり
引退く先駈の将野木備前守大は怒り馬廻り二十騎人にて踏
入武田勢と十人追突殺し壮氣猛然と戦へば小笠原勢野
木と討せずと取て返し追つ追れつ挑合ふ此時武田が後陣は備へ
る原加賀守士卒は下知して下道より廻つく敵の後へ絶切殺
討べ今日の勝利我は小笠原が後陣の
水野飛弾守も下道ふかいく武田勢が左りべと絶たんともみ
ふさんで弛まる両勢半遠ててと約合と一斉に
鉄炮とおうけ鬨と合せ戦ひと始めあらう水野飛弾守は卒な
下知し此道敵取られあば本道の味方も一人も生る者あば

大幸ゝ場所ぞ踏出へ〳〵突出明せと叩きえ〳〵進ゝられば原加
賀守も士卒と励まし此池と退かば本道の戦ひ山ケ谷うべし
只混突ゝ突ゝ敗せと無二を三度ゝ戦ひ今日の勝敗を此戦ひよ
りとぞ見へ〳〵ける

習井坂合戦之事

坂路上下の合戦二箇所ゝ有り程小山谷ゝ有が為小鳴舞ゝ樹木
雲ひ初ゝ今や尚れ落ゝうと憚れ〳〵物淋しくぞ見へ〳〵る名
却説上道ゝ板垣小幡横田布川が勢と野木丸山兄弟が勢
と互ひ一足も引じと合中ゝ野木備前守が働ひ鬼神の如く是ゝ
前ゝ敵〳〵生と食ふとる者ゝ武田勢ハ悉く
前守一人ゝ切ゝられ足並ハ乱れ〳〵漂ふ所ゝ曲淵庄左衛門兵卒

段

と押ゝ天晴の御勇候御大将の名と義〳〵ばやと声とかけ
完ひ〳〵野木備前守ゝて候ゝ実殿の名も義〳〵ん〳〵と関ば
曲淵ゝ為ゝ某ゝ板垣弥治郎が組頭曲淵庄左衛門〳〵者
ゝいざ一手仕ん〳〵と鎗と閃〳〵と突かゝる備前守
も鎗とつ〳〵と鳴して突合せ遣へ〳〵ゝ〳〵と〳〵れば刎
上〳〵突徒ふ剛勇ゝ野木大力の曲淵互ゝ喚き叫ぶ声ゝ山
谷ひ響〳〵穂先の光ゝ蒼樹と照〳〵畳うけて突〳〵ば
上〳〵ゝ押ひ上殿ゝ鋒先と合ひと見へれば忽ち下殿ゝかつと掛
弛合せ馳違ふ形勢ゝ獅子の猛〳〵狂ふゝ異ゝ雌雄と一時ゝ
せんと挑〳〵ゝ互ひ倒ゝ大両降車車軸と流ゝが如く日ゝ脆み
山みゝ入んと〳〵樹木ゝ射〳〵ける山間冥〳〵〳〵て足の踏所も分ぬ

らざれば互に声とうけ合せ勝負を明日決せんいざ引取うんと左右
小ざりと引離るゝ道の戰ひも谷水落るとく足場自由あらざれ
べ物分まりてそ[illegible]

小幡孫左衛門尉[illegible]九山城守[illegible]事

斯く両勢も小坂と隔て陣と取終夜篝を焼く夜と明せど両
猶止ぬ川々水嵩増りて[illegible]の息と休あ二日とるこゝ後
漸く治りしかば武田勢小坂と打越責鼓と乱廻よりあく寄かゝる
松本勢も金鼓と敲き立て鉄炮と放し矢と射かけ鎗薙と造て
喚と突合れば[illegible]と切結び対て[illegible]別まてい対合雄終東
西に靡せ敵と一番小討崩えんと雄れども地利案内の松本勢
駈引自在と得て対程に武田方[illegible]もとれば対立られてぞ[illegible]

[illegible]の麦小武田勢引中より黒糸威の鎧と著し糟毛
の馬小白泡喰せて[illegible]者陣頭に進て大音[illegible]中[illegible]
殿を居給つるや曲渕庄左衛門にて候[illegible]の勝負と変
せん生合[illegible]と呼ばれば松本勢の中より明黄威の鎧に黒
糸馬に[illegible]同じく鎗と提て進て出野木是[illegible]と[illegible]
寄て鑓とうつと搦て双方[illegible]の勇士なれば互に手練の穂
先尖て閃くして突結ぶ光も電光の[illegible]小異[illegible]駈
違ふい猛虎の性風と[illegible]龍の雲中小駈[illegible]突[illegible]
引ば付入暫く勝負もなんざりる餘り烈しき戰ひに両軍
とも[illegible]曲渕や対[illegible]野木や突[illegible]堅[illegible]と呑[illegible]と抱つ
く見物を交戦良時と移[illegible]れば野木[illegible]奇らい[illegible]時と

期とべきと腿くと畳うけて突かゝる曲淵ら鎗とかゝうゝ
くと打拂ふく却退るあいや曲淵い討まんとえへうゝしが
いうゞある透間や見出しゝ久ん曲淵庄左衛門大唱一声して稲妻
付ぬく付入備前守が胸板の脱まとう咽喉と用うけゞと突く
穂先八寸斗り突出れば備前守馬上ゆらゆらと大地へゞつと
落る所と曲淵馬より飛ぐり押へゝ首とゞ取ゝうゝ原武
田方は惣勢一同小ゝ寄ゝと寄ゝ寄ゝ向原が勢
喚と叫んぐすゝくわまとべ松本勢勇ましい大江隼人山住
治郎他遠山吉左エ門尉源助部丹後守鈴木十左衛門小野市
兵衛深巣五郎作等三十二人討死を世時市川梅印ハ間道
より松本勢が左ゝ小巡り在家北條軒小火と放つゝ関と

549

くれば松本勢後と顧て面ゝ叶ふはゞと拔一ゝ山明ゝ三十條
所退ひく陣とゝり小笠原が深志の城ゆ援兵ゝ乞ふ事急く
斯く武田の諸大時ゝ松本勢と追討ゝ陣営ゝ諸大将
軍議ゝ時小幡織部正ゆ味方両度の勝利と得ると
ゝ客戦ゝ松本勢ゝ逃足付ゝと仕候と
備ゝと窺ゝ小笠原が援兵を待と覚へゝ敵ゝ勢の付
ぬ先急ゝ攻討べ一統へもゝ同ゞ翌黎明
と押出ゝ組合急ゝ責ゝれば松本勢も此地とゝゞと引生
ゝ戦へべ両勢の北傷負と出ゝ
が伯父九山飛騨守ゝ大剛無双ゝ勇将ゝて数度ゝ高名と顕へ
脊の高さ六尺餘点の髭噌ゝ生ゞ面負ゝ虬龍の如ゝ大兵歩卒

八十人と赤ゞ小笠原の一味し松本勢三手み合て備へくる弓く
社方二所手引下つく備へゞ汝合と見く原加賀守ゞ手へと敵
塵あせんと進くる武市川梅印原与左衛門ゞ燒喰とかゝり取
廻くく討んとすれば九山燒ゞ白ゞと手先と廻くく突くる
筑前守も群る敵み割く入馬と縦横に乘廻し突伏切倒し揉
合く三四度だゝう手痛く戰ひくれば市川原ゞ勢死傷數多く極へ
ざくて崩れ引九山も小勢なれば おゝに退て士卒と休ませ筑
前守ゞ只一騎馬の前後に歩卒六人と赤ゞ武田燒み結へ近く
馬と乘ゞ九山筑前守と高上名乘小幡ゞ備へ近き小高ゝ
岡の如て馬より下りゞ赤ゞくと陣に上りく甲州燒と見積くる
頬魂敵と物ゝ屬くもせぬ大膽不敵の敗燒あり家小武田陣の

右に備へくる小幡織部ゞ折節軍議ゝ爲板垣ゞ陣に行く
一子孫治郎生年十六歳ゞ小あくて備へゞ九山筑前守ゞ傷者
無人の体と見く西ゝ敵の挙動くる秋陣近く敵と置いて徐所
に見るべきゞ出物見せんといふ侭郎從遠藤弥市郎に從者ゞ六
人と赤ゞ九山と目ふけて馬と躍せ其間弓長十丈むり此方に
く馬より飛り鎗扣取く大音小呼くる小幡織部正虎盛ゞ子
同名孫治郎今日初陣にて候也九山殿の勇猛くく聞ふる所
あれば奥く勝負と変し敵味方ゝ人々小見物くせんと無二無三
に突くかくる九山笑と合く黄口兒ゞ優き者動くくと左右ゞ鎗ゞ
牛ゞとくゞ南猛の九山壮士の小幡歩行者の戰ひあれば花と
踊り滯り上段下段と突合せ叱声憤声虎の猛ひ廻くゞ人交

551
甲越

も甚だ戦ふ小幡が家来遠藤孫市郎歩卒五人孫治郎と
と合さんと独駆け出で九山が家来保原源左衛門は歩卒五人道を
遮て遠藤を渡り合ふ九山小幡小高紀伊守はいろて穂先より
中へと散して挑めども九山が猛勢烈しくさしもの雄なる孫治郎
突き倒されく脇の通れ肘の曲り小二箇所太股小一箇所
箇所の痛みと苦り心あらば弓手の生ふ鎧上と脇小疵ふ
くっんある所ふ小幡が備へ横田十郎兵衛尉是とうんく
小幡対する孫治郎敵へ中へ二三十騎真一文字小押りる九山屈目
えてかー引退く鎗と従者を渡し馬引寄せ手綱とうんと
の乗る所と小幡痛みふ屈せば走りかつて太刀と援よう早く九山が右
の膝と節うけて鋒通れるまくふ切通べさしも大剛の九山能茶

重創あれば働き得ど尻居小倒るを小幡得ると駈寄所を九
山排ひ切ふ孫治郎が太股と磯と切る孫治郎これも痛み乗
りて首とど取ると九山が歩卒等も主と討せく叫び
と引退くと孫治郎痛みふ屈せば已等も主の供せと追ふ
く三人と突間しい滅ま比類あれ働きあり猫子の九山肥後守
筑前守と対せ吊ひ軍せん迎ひ早松本勝敗軍一八方
ま乱れとられんあらば敗兵ま引きく今日武田方
ま獲る所の首百七十ま級と本陣源紡小献る小幡孫治郎
重創保養ま為甲州ま見ふ迎源紡ま参着一ろまべ
晴信の様と内給ひ手柵の体と黙見あり流石織部
ふ子あり為て感状ま一文字ま雑刀と賜りれまべ孫治郎ハ

面目を施し甲州より会津より又伊奈筋ハ浅利武部
馬場民部少輔山本勘助安間三郎右衛門よりも首数級
を献じ〻勝利の次第を注進ス

池清

繪本甲陽軍記巻之八終